

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔鳥取県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校（中学校）	米子市立尚徳中学校	13（2）	330
連携校 （拠点校中学校区 内の小学校）	米子市立尚徳小学校	15（3）	288
	米子市立五千石小学校	8（2）	140
	米子市立成実小学校	9（1）	183
		（ ）	

※学級数の（ ）には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査（アンケート共通項目）

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる				
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
中学校	高年 計	前年①	325	50.8	36.3	9.2	3.7	57.2	34.5	5.8	2.5	42.2	44.6	9.8	3.4	28.3	44.0	20.0	7.7	
		前年②	334	49.7	36.8	10.5	3.0	58.7	32.6	6.6	2.1	34.4	46.7	15.3	3.6	21.9	48.8	22.2	7.2	
		本年①	323	48.9	33.9	7.4	3.7	62.5	30.7	5.3	1.5	32.8	50.5	14.9	1.9	30.3	51.7	12.4	5.6	
		本年②	316	43.0	46.2	8.9	1.9	56.0	36.7	4.1	3.2	31.3	45.6	19.6	3.5	19.3	52.8	22.8	5.1	
	3	中2①	107	30.8	46.7	16.8	5.6	38.3	44.9	10.3	6.5	36.4	41.1	15.9	6.5	21.5	36.4	25.2	16.8	
		中2②	105	34.3	42.9	15.2	7.6	41.9	42.9	8.6	6.7	33.3	43.8	16.2	6.7	18.1	43.8	26.7	11.4	
		中3①	110	41.8	33.1	10.9	8.2	47.3	40.9	10.0	1.8	34.5	51.8	11.8	1.8	24.5	51.8	15.5	8.2	
		中3②	108	45.4	38.9	10.2	5.6	52.8	36.1	6.5	4.6	37.0	47.2	11.1	4.6	23.1	47.2	22.2	7.4	
		2	中1①	102	61.8	31.4	2.9	3.9	76.5	23.5	0.0	0.0	41.1	48.0	4.9	2.9	40.2	44.1	13.7	2.0
			中1②	103	51.5	33.8	7.8	1.0	69.9	24.3	5.8	0.0	37.9	44.7	14.6	2.9	27.2	50.5	18.4	3.9
			中2①	102	49.0	44.1	6.9	0.0	66.7	31.4	2.0	0.0	35.3	46.1	15.7	2.9	22.5	61.8	9.8	5.9
			中2②	98	45.9	50.0	4.1	0.0	67.3	28.6	2.0	2.0	34.7	43.9	18.4	3.1	14.3	62.2	19.4	4.1
	1	小6①	113	41.6	46.9	9.7	1.8	61.9	31.9	2.7	3.5	31.9	33.8	23.0	5.3	34.5	48.7	12.4	4.4	
		小6②	113	42.5	49.6	7.1	0.9	54.9	33.8	3.5	1.8	31.9	45.1	20.4	2.7	37.2	44.2	14.2	4.4	
		中1①	111	55.9	36.9	4.5	2.7	73.9	19.8	3.6	2.7	28.8	53.2	17.1	0.9	43.2	42.3	11.7	2.7	
		中1②	110	38.2	50.0	11.8	0.0	49.1	44.5	3.6	2.7	22.7	45.5	29.1	2.7	20.0	50.0	26.4	3.6	
	小学校	高年 計	前年①	223	33.5	44.8	12.6	3.1	65.0	28.7	4.5	1.8	30.9	43.9	20.6	4.5	34.1	43.3	12.1	4.5
			前年②	224	46.0	42.4	9.8	1.8	63.4	32.1	3.1	1.3	35.3	43.3	18.8	2.7	42.4	42.9	12.1	2.7
			本年①	217	49.8	41.5	6.0	2.8	70.0	24.9	3.7	1.4	36.9	47.9	12.9	2.3	43.3	43.3	10.6	2.8
			本年②	214	57.5	33.6	6.5	2.3	72.9	22.4	4.2	0.5	36.9	51.4	10.3	1.4	48.1	46.3	5.1	0.5
6		小5①	110	37.3	42.7	15.5	4.5	68.2	25.5	6.4	0.0	30.0	48.2	18.2	3.6	33.6	50.0	11.8	4.5	
		小5②	111	49.5	35.1	12.6	2.7	72.1	24.3	2.7	0.9	38.7	41.4	17.1	2.7	47.7	41.4	9.9	0.9	
		小6①	113	46.0	44.2	7.1	2.7	67.3	27.4	4.4	0.9	34.5	50.4	14.2	0.9	38.9	44.2	13.3	3.5	
		小6②	111	51.4	36.9	9.0	2.7	64.9	29.7	5.4	0.0	30.6	56.8	11.7	0.9	41.4	51.4	6.3	0.9	
		5	小5①	104	53.8	38.5	4.8	2.9	73.1	22.1	2.9	1.9	33.4	45.2	11.5	3.8	48.1	42.3	7.7	1.9
			小5②	103	64.1	30.1	3.9	1.9	81.6	14.6	2.9	1.0	43.7	45.6	8.7	1.9	55.3	40.8	3.9	0.0

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押し				ク 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	学年計	本年①	323	78.0	14.2	4.0	3.7	66.3	17.6	7.4	8.7	72.4	15.2	8.7	3.7	66.9	18.0	11.8	3.4
		本年②	316	80.4	13.6	3.2	2.8	65.8	24.1	6.6	3.5	72.8	16.8	6.6	3.8	63.3	28.5	5.1	3.2
	3	中3①	110	81.8	12.7	3.6	1.8	72.7	16.4	5.5	5.5	77.3	11.8	8.2	2.7	70.9	11.8	14.5	2.7
		中3②	108	88.0	10.2	0.9	0.9	66.7	26.9	6.5	0.0	76.9	13.9	8.3	0.9	69.4	22.2	5.6	2.8
	2	中2①	102	76.5	17.6	2.0	3.9	56.9	20.6	8.8	13.7	74.5	15.7	5.9	3.9	58.8	24.5	10.8	5.9
		中2②	98	76.5	12.2	5.1	6.1	58.2	23.5	10.2	8.2	75.5	11.2	7.1	6.1	59.2	30.6	6.1	4.1
	1	中1①	111	75.7	12.6	6.3	5.4	68.5	16.2	8.1	7.2	65.8	18.0	11.7	4.5	70.3	18.0	9.9	1.8
		中1②	110	76.4	18.2	3.6	1.8	71.8	21.8	3.6	2.7	66.4	24.5	4.5	4.5	60.9	32.7	3.6	2.7
小学校	学年計	本年①	217	56.2	24.9	10.6	8.3	50.2	18.9	16.1	14.7	57.6	27.2	10.1	5.1	53.0	29.5	12.9	4.6
		本年②	214	67.8	17.3	9.8	5.1	64.5	16.4	11.7	7.5	64.5	19.2	15.0	1.4	58.4	24.8	14.0	2.8
	6	小6①	113	55.8	25.7	10.6	8.0	49.6	20.4	16.8	13.3	56.6	24.8	12.4	6.2	44.2	35.4	15.0	5.3
		小6②	111	62.2	18.0	13.5	6.3	59.5	18.9	11.7	9.9	57.7	20.7	18.9	2.7	55.0	22.5	17.1	5.4
	5	小5①	104	56.7	24.0	10.6	8.7	51.0	17.3	15.4	16.3	58.7	29.8	7.7	3.8	62.5	23.1	10.6	3.8
		小5②	103	73.8	16.5	5.8	3.9	69.9	13.6	11.7	4.9	71.8	17.5	10.7	0.0	62.1	27.2	10.7	0.0

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	自分の思いを伝えることが苦手なため人間関係をうまく築けない。学習意欲や基礎学力の低さにより学びから逃げる児童生徒がいる。
目標	中学校区連携を図り、自他ともに大切にし、豊かな人間関係を築き、仲間とともに主体的に学び合い高め合う児童生徒を育成する。
取組	「学び合い」のある学習活動の充実。児童会・生徒会活動、地域交流や体験活動の充実。人権教育を基盤とした仲間づくり。

5 重点推進事項

小・中共通	<ul style="list-style-type: none"> ① 「学び合い」のある学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ア) 「学び合い」のある学習活動の充実 イ) 小中共通の学習規律の確立 ウ) 交流授業研究会(教科)の実施 ② 児童会・生徒会活動、地域交流や体験活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ア) 自尊感情を育む縦割り活動 イ) 地域の方と一緒にやる体験活動 ウ) 児童生徒の交流活動 ③ 人権教育を基盤とした仲間づくり <ul style="list-style-type: none"> ア) 思いを伝え合う人権学習の充実 イ) 自尊感情を育む「ほめ合い認め合う」場の設定 ウ) 交流授業研究会(人権学習・仲間づくり)の実施
-------	--

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」において、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な意見が、昨年度1回目と比べて全体的に数値が上がり、今年度2回目では小中合わせた平均で90%に達した。(4.1ポイントの上昇) ・「みんなで何かをするのは楽しい」において、肯定的な意見が、小学校高学年計・中学校全学年計ともに、昨年度1回目と同様90%を超え、わずかではあるが上昇した。特に中3は中2時の1回目と比べて5.7ポイント上がった。 ・いじめに関する4項目の指数平均が、今年度1回目と比べて2回目では、小中すべての学年において数値が上昇した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目は、「魅力ある学校づくり」の趣旨やそれぞれの取組のねらいが全職員に浸透しなかった面があったが、2年目は各校において共通理解の徹底を図り、年度当初より計画的に取組を行うことで成果が出たと思われる。 ・様々な行事を児童生徒の主体的な活動にしていくことで、やりがいや達成感・学校生活の満足感につながったと考えられる。これまでも児童生徒が主体ではあったが、当日の活動だけであったり形式的なものになったりしがちであったものを、事前指導や当日までの取組を充実し大切にすることで、児童生徒により主体的に関わっている意識をもたせることができた。 ・各校における縦割り活動や小中交流・小中交流を効果的に行ったことで、「みんなで何かをするのは楽しい」という気持ちや学校生活の安心感につながったと考えられる。小学校においては、遠足や運動会などはもちろん、体験活動にも縦割り活動を効果的に取り入れた。また小中交流においては、3小の5・6年生で行っている親善水泳大会の種目に交流を目的としたものを入れたり、新たに合同授業を行ったりした。小中交流においても、新入生説明会を児童同士または6年生と中学生の交流を中心とした「4校交流会」にしたり、各小学校に中学生があいさつ運動に出かけたりした。 ・思いを伝え合う人権学習や「ほめ合い認め合う」活動を通して、一人一人をかけがえのない存在ととらえ、自他ともに大切にする気持ちが高まったと考えられる。その際、人権教育部会や学級担任会において、ねらいや指導方法の共通理解を図ったり情報交換を行ったりしたことが効果を高めたとと思われる。

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に主体的に取り組んでいる」において、昨年度1回目と比べて今年度2回目では、肯定的な意見が、中学1年生で2.6、中学2年生で11.6ポイント下がった。 ・「授業がよくわかる」において、昨年度1回目と比べて今年度2回目では、肯定的な意見が、中学1年生で12.3、中学2年生で7.8ポイント下がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5・6年生においては、左記の2項目の肯定的な意見の数値は上がっており、特に「授業がよくわかる」はそれぞれ90%を超えている。また、中学3年生においても2項目とも昨年度1回目と比べて今年度2回目では、肯定的な意見が10ポイント前後上がっている。このことから、取組そのものには一定の成果があったと言える。中1も中2も、中1の5月の回答が一番高くなっている。これは、意識調査を5月の早い時期に実施したため、中学校生活への期待感から数値が上がった可能性がある。しかし、その後大きく数字を下げていることから、小学校から中学校への学習にうまく移行できず、つまづいてしまったと言える。原因としては、授業の振り返りでの学習の定着や家庭学習の習慣化を図る取組が不十分であったことが考えられる。学習内容が大きく増える中学校において、いかに多くの生徒に理解を図り、主体的に取り組ませるかが課題である。

7 2年間の調査研究の成果と課題

① 「学び合い」のある学習活動の充実

- 「学び合い」をキーワードに、小中全職員で授業改善に取り組めた。また、小中の学習規律を揃え、子どもたちが戸惑いなく中学校への学習へ移行できる体制をつくれた。(学力向上部会を中心に小中および小中の連携が図れたため。研修会や授業研究会等を通じて、「学び合い」のイメージを共有できたため。)

7月			第4回小中連絡協議会(小・中) 終わりの会の公開(3年) 第1回魅力ある学校づくり調査研究委員会(小・中) 校内研究3部会研修	◇ ◇ ○ ○
8月	小学校担任連絡会(全小・全学年) 親善水泳大会(全小・高学年)	◇ ○	校区教育推進協議会・研究3部会研修(小・中) 研究職員会	○ ◇
9月	秋季大運動会(全小・全学年)	○	体育祭(全学年) 第5回小中連絡協議会(小・中)	○ ○
10月	花づくり(尚徳小・全学年) 稲刈り(五千石小・全学年) 命を大切に参観日(成康小・全学年) 授業研究会(尚徳小・6年)【小中合同】 自尊感情アンケート(全小・全学年) カウンセリング週間(全小・全学年)	○ ○ ○ ○ ○ ○	西日本ブロック協議会(小・中) 人権弁論・原稿づくり(全学年) 授業研究会(全学年)【小中合同】 第3回市教育委員会訪問	○ ○ ○ ○
11月	学習発表会(全小・全学年) 人権教育授業研究会(成康小・246年)【小中合同】 高齢者交流(成小・5年、尚徳小・3年、五千石小・3年) 大豆収穫(尚徳小・4年、成康小・3年) 人権教育参観日(尚徳小・全学年) 授業研究会(成小・15年、五千石小・全学年)【小中合同】	○ ◇ ○ ○ ○ ○ △	文化祭(全学年) 人権弁論・班、学級弁論(全学年) ノーメディアデーの実施(小・中) 校内3部会研修 人権教育参観日(全学年) 第4回市教育委員会訪問	○ △ ○ ○ ○ ○
12月	第2回意識調査(全小・全学年) もちつき集会(五千石小・全学年) 保育園・幼稚園交流(成康小・3年)	○ ○ ○	第2回意識調査(全学年) 第6回小中連絡協議会(小・中) 授業研究会(全学年) 校区教育推進協議会・研究3部会研修(小・中)	○ ◇ ○ ×
1月	保育園・幼稚園交流(五千石小・1年) 昔遊び(成康小・1年、尚徳小・1年) 授業研究会(尚徳小・1年)【小中合同】 自尊感情アンケート(全小・全学年) カウンセリング週間(全小・全学年)	○ ○ ○ ○ ○	生徒総会(全学年) 授業研究会(全学年)【小中合同】 第7回小中連絡協議会(小・中) リーフレットの発行 第5回市教育委員会訪問	○ △ ○ △ ○
2月	味噌づくり(尚徳小・4年) 命を大切に参観日 (尚徳小・全学年、五千石小・全学年)	○ ○	第2回連絡協議会〔東京〕(小・中) 第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会(小・中) 新入生説明会(生徒会、全小・6年) ノーメディアデーの実施(小・中) 人権教育期間(全学年) 第6回市教育委員会訪問	○ ○ ○ ○ ○ ○
3月			校内研究3部会研修	○

<平成25年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	学級開き(全小・全学年) 全校縦割り遠足(全小・全学年)	○ ○	学級開き(全学年) 第1回連絡協議会〔東京〕【小中合同】 校区研究3部会研修【小中合同】	○ ○ ○
5月	授業研究会(全小)【小中合同】 第1回意識調査(全小・全学年) 田植え(五千石小・全学年)	○ ○ ○	授業研究会(全学年)【小中合同】 第1回意識調査(全学年) 第1回小中連絡協議会【小中合同】	○ ○ ○

			第1回市教育委員会訪問 あいさつ運動(生徒会、学期に1回)	○ △
6月	授業研究会(全小)【小中合同】 人権教育参観日(研小・筑小・成小) 花づくり(尚徳小・全学年、成実小・全学年)	○ ○ ○	授業研究会(全学年)【小中合同】 人権教育期間(全学年) 第2回市教育委員会訪問	○ ○ ○
7月	授業研究会(全小)【小中合同】	○	人権教育参観日 第2回小中連絡協議会【小中合同】 第1回調査研究委員会【小中合同】	○ ○ ○
8月	小学校担任連絡会(全小・全学年) 親善水泳大会(全小・高学年)	○ ○	校区教育講演会【小中合同】 校区研究3部会研修【小中合同】 部活動体験【小中合同】	○ ○ ○
9月	秋季大運動会(全小・全学年) 3小学校合同出前授業(全小・6年)	○ ○	体育祭(全学年) 第3回小中連絡協議会【小中合同】	○ ○
10月	授業研究会(尚徳小)【小中合同】 花づくり(尚徳小・全学年) 稲刈り(五千石小・全学年) 命を大切に参観日(成実小・全学年)	○ ○ ○ ○	授業研究会(全学年)【小中合同】 西日本ブロック協議会 第3回市教育委員会訪問 人権弁論(全学年)	○ ○ ○ ○
11月	授業研究会(全小)【小中合同】 花づくり(成実小・全学年) 人権教育参観日(尚徳小・全学年)	○ ○ ○	文化祭(全学年) 第4回市教育委員会訪問 第4回小中連絡協議会【小中合同】	○ ○ △
12月	第2回意識調査(全小・全学年) もちつき集会(五千石小・全学年)	○ ○	第2回意識調査(全学年) 授業研究会(全学年)	○ ○
1月	昔遊び(全小・1年) 授業研究会(尚徳小)【小中合同】	○ ○	第5回小中連絡協議会【小中合同】 第5回市教育委員会訪問 人権教育期間(全学年)	○ ○ ○
2月	命を大切に参観日 (尚徳小・全学年、五千石小・全学年)	○	第2回連絡協議会〔東京〕【小中合同】 第2回調査研究委員会【小中合同】 新入生交流会(生徒会、全小・6年) 第6回市教育委員会訪問	○ ○ ○ ○
3月			新入生情報交換会【小中合同】	○

(2) 重点推進事項の実施状況

〔小・中共通〕

① 「学び合い」のある学習活動の充実

ア) 「学び合い」のある学習活動の充実
学力不振が不登校のきっかけになることも多くあるため、また従来の一斉指導型の受け身の授業だけでは学びから逃避する児童生徒も多いため、「学び合い」のある学習活動の充実に努め、仲間とともに主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、学力の向上に努めた。実際の取組としては、まず校区教育講演会を実施し、同じ講師の話を全職員が聞くことで「学び合い」のイメージの共有化を図った。次に、研究主任会や学力向上部会、合同学年別学級担任会において、『「学び合い」が生まれる学習課題』『「練り合い」場面での教師の支援』などについて話し合い、各校の取組について情報交換を行った。そして、「学び合いの進め方」(小学校)や「学び合いのルール」(中学校)を作成し、すべての教室に掲示して、「学び合い」のある学習活動の実践に努めた。また、各校で行う授業研究会に互いに参



加し合い、「学び合い」について具体的に話し合った。「学び合い」を通して、友達と一緒に学習する楽しさ、学習内容がわかる喜び、友達の役に立っているという自己有用感などを感じ、学習意欲の向上や自尊感情の育成、豊かな人間関係づくりにもつながったと思われる。

イ) 小中共通の学習規律の確立

小中共通の学習規律を確立することで、中学校への移行がスムーズに行われるようにした。具体的には、中学校の学習規律をもとにして、各小学校とも発達段階に応じて取り組んだ。特に「聞き方」・「話し方」、授業開始と終了のあいさつ、チャイム着席については、全校で共通理解し、指導に取り組んだ。また、掲示物等の教室環境についても、特別支援教育の視点から全校で揃えていった。授業を受ける姿勢や学習用具についても小中連携して取り組み、児童生徒が授業に集中する習慣づくりに努めた。

② 児童会・生徒会活動、地域交流や体験活動の充実

ア) 自尊感情を育む縦割り活動

人と関わる喜びを体感させ、学年の枠を超えた仲間づくりを行い、楽しく安心して生活できる学校づくりにつなげることをねらいとして、児童会・生徒会を中心とした縦割り活動の充実に努めた。また、児童生徒自らの活動は、主体的な態度を養うとともに、達成感や成就感を味わうことができ、自尊感情を育むことができると考えた。指導にあたっては、取組前に必ず教員の打ち合わせを行い、ねらいや方法を共通理解するようにした。その際、児童生徒に任せるべきことと、そうでないことを整理し、全体の中での各教師の役割を確認した。実際の活動においては、当日だけの活動ではなく、事前事後の取組を大切にしたり、生徒が思いを語る場面を設定したり、感謝の気持ちを伝えるメッセージ交換を行ったりした。



イ) 地域の方と一緒にやる体験活動

地域の様々な世代の人たちとの交流や体験活動を通して、社会性を養うことをねらいとして取り組んだ。また、自分たちの活動が地域の方にほめられたり認められたりすることで自尊感情も育まれると考えた。小学校では、地域の方の指導のもと、年間を通して栽培活動を行った。その際、縦割り活動の視点を取り入れ、より効果が高まるように工夫した。例えば、全校児童が地域の方から直接学んでいたことを、まずは上級生が地域の方から学び、それを下級生に伝えるやり方に変更した。こうすることで、上級生は下級生の役に立ったという自己有用感を持つことができ、下級生は上級生に感謝するとともに楽しかったという思いを持ち、学校生活の安心感につなげることができた。中学校では、地域の活動（校区民運動会や公民館祭など）に参加したり、地域の保育園児と交流活動を行ったりすることで、体験・交流活動の楽しさを感じ、地域の一員としての自覚や自己有用感の向上につなげることができた。

ウ) 児童生徒の交流活動

交流活動を通して、3小学校の児童、小学生と中学生が顔見知りになるとともに、中学校に対する理解を深め、入学後の不安感を和らげるようにした。3小の5・6年生全員が参加する親善水泳大会では、交流の視点を取り入れ、児童の発案による「みんなでジャンケン」や「手つなぎ鬼」という種目を実施した。従来の学校対抗色が強かった水泳大会に、交流を目的とした種目を実施することで、同じ中学校に進学する仲間としての意識づけができた。中学校で行われる新入生説明会も、これまでの説明中心のやり方から交流に重点を置いたものに変更した。児童による各小学校の紹介や、3小学校の児童を混合にしたクラス分けを行い、中学校教員による体験授業、中学校生徒会によるグループ活動（中学校生活についての質疑応答）などを行った。児童同士の自然な交流を促すことができ、中学校生活への不安感解消につながった。



また、中学生が出身小学校へ出かけて行くあいさつ運動を新たな取り組みとして行った。

③ 人権教育を基盤とした仲間づくり

ア) 思いを伝え合う人権学習の充実

人権学習を通して、身近な生活の中にある偏見や不合理・差別に気づき、見逃さず、注意し合えたり、一人の問題を自分たちに関わるみんなの問題として話し合えたりするような、支え合いや高め合いができる仲間づくりを進めた。指導にあたっては、校区全職員参加の学級担任会での話し合いに基づいて取り組んだ。特に共通教材については、ねらいを共通理解した上で同じ資料を使って授業を行い、児童が同じ人権意識を持って中学校に進学できるよう努めた。学習展開においては、児童の主体的な学習になるとともに、学習を通して仲間づくりが進められるように、小集団活動や話し合い活動を取り入れ、互いの思いを伝え合い、受け止めることができるように工夫をした。また、小中全職員参加の授業研究会を行った。全学級の授業を公開した後、低・中・高学年の3分科会に分かれて意見交換を行った。全員が同じ授業を見ることにより、人権学習のねらいや学習方法について、児童の「学び合い」の姿をもとに協議することができ、めざす子ども像や授業づくりの共有化を図ることができた。

イ) 自尊感情を育む「ほめ合い認め合う」場の設定

「ほめ合い認め合う」活動を通して、一人一人をかけがえのない存在ととらえ、自尊感情を育むことで、居心地のよい学級づくりをめざした。具体的には、終わりの会や様々な活動の場面において、お互いの良さや頑張り、成長などをほめ合ったり認め合ったりした。小学校では、その日にあった個人の「よいこと」を見つけてカードに書き、その児童の名前が書かれている掲示場所に貼って、学級全員で認め合い、自尊感情の高まりにつなげた。中学校では、終わりの会のときに、個人や集団（班・学級など）の頑張りや成長を、各班で相談して1つずつ出し合い、全体で発表し合った。また様々な行事においても、児童生徒の頑張りを具体的にほめ合い認め合う場を設定し、教師や地域の方などの大人もほめるようにし、より効果が高まるよう努めた。

9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活動内容
4 (1)	事業全般	企画・立案・運営等 事後評価のまとめ 関係者及び関係機関・団体等との連絡調整
4 (2)	小・中連携	小中合同会議の連絡調整 担当者会の連絡調整 児童生徒交流の推進
	小・小連携	小中合同会議の連絡調整 担当者会の連絡調整 児童生徒交流の推進
4 (3)	データ収集、 分析等	不登校児童生徒の数や学校生活の様子をデータ化 児童生徒の学力や意識調査の結果をまとめ、分析
4 (4)	取組の評価	教職員自己評価、生徒評価、保護者評価、学校評議員会、 学校関係者評価委員会等での分析・まとめ
4 (5)	資料作成、 広報等	ホームページ及びリーフレットの作成、 研究紀要の作成 学校便りの内容等の助言

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 事業全般の企画・立案・運営等、関係者及び関係機関との連絡調整を円滑に行うことができた。(各校の理解が進み、全校体制での協力が得られたため。)
- ・ 意識調査の結果をまとめ、分析し、関係者と共通理解を図ることができた。(調査用紙の作成から結果の集計までを中学校で一括して行ったため。)

- ・ 小中合同の研修会や担任会などを新たに設定・実施することで、より共通理解を図ることができた。（教育委員会の協力で希望する講師を呼べたため。各校で時間調整を図ったため。）

<課題>

- ・ リーフレットの作成は2年続けてできたが、ホームページや学校便り等での情報発信が十分にできなかった。（各校のホームページや学校便りの担当者と、それぞれの取組について具体的に情報交換ができなかったため。）

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 「学び合い」のある学習活動の教職員への共通認識
- ・ 児童生徒の交流活動の推進
- ・ 小中連携ならびに小小連携のコーディネート
- ・ 校区の取組を市全体へ広げるためのコーディネート

〔課題と成果〕

- 研究部会や中学校教員による専科授業を実施することで、中学校が求める「学び合い」を共有することができた。また、校区全職員への啓発や合同講演会等の実施により、「学び合い」のある学習活動の具体的なイメージが共通理解された。
- 全職員参加の教科の研究授業を実施することができず、「学び合い」のある学習活動の実践的な教職員への共通認識が不十分に終わった。
- 3小学校合同授業を市教委が主催することで、児童交流の推進ならびに小小連携のコーディネートにつながった。また、昨年度に引き続き、親善水泳大会（5・6年）や新入生説明会（6年）等が中学校への架け橋となる取組となり、来年度はさらに宿泊訓練（4年）についても合同実施を計画している。
- 成果発表会で校区の中学校職員を中心に、「学び合い」の授業と「ほめ合い認め合う」終わりの会を全学級公開し、2年間の取組や成果・課題を発表することができた。また、今年度から実施している米子市版小中一貫教育のモデルとしても、全市に広めることができた。
- 教職員意識調査を実施し集約することで、職員の意識や2年間の成果・課題を確認することができ、次年度につなげる資料となった。
- これらの成果や課題を来年度以降、しっかり継続していくことと、米子市版小中一貫教育へさらに広げていくことが今後の大きな課題である。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 当該中学校区の取組を周辺地域へ広げ、西部地区全体の不登校出現率の減少をめざす。

〔課題と成果〕

- 校長会連絡や西部地区市町村教委担当指導主事の会などで、当該中学校区の取組や成果を紹介し、小中、小小連携の推進を働きかけた。
- 西部地区全体の不登校児童生徒数では、平成26年2月末現在で、小学校は昨年度に比べ約13%、中学校は約18%減少している。特に、中学1年生での不登校出現率が減少しており、中1ギャップの解消に成果が現れてきていると考えられる。
- 本事業の取組や成果を積極的に発信していくように努めたが、市町によって取組に差が見られ、西部地区や全県にまで取組を広げることができなかった。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考 (主な職名等)
県・市教育委員会	2	指導主事
小・中学校	8	各校校長 4、各校事業担当者 4
学識経験者	1	元中学校長
地域住民	4	公民館長

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 地域の方に小中学校の取組を理解していただき、協力体制を築くことができた。特に、公民館の行事に児童生徒が参加したり学校行事に関わっていただいたりしたことにより、児童生徒がより地域とつながることができた。
- ・ 学校や地域での児童生徒の様子を情報交換し、児童生徒の理解につなげることができた。

<課題>

- ・ 普段から情報交換や連携を密にしていき、さらに相互理解を深めていきたい。

12 作成資料等

<平成24年度>

- リーフリレット (平成24年度版、A4版4ページ)

<平成25年度>

- リーフリレット (平成25年度版、A4版6ページ)
- 研究紀要 (平成24・25年度版、A4版102ページ)

13 関連URL

米子市立尚徳中学校ホームページ <http://www.torikyo.ed.jp/syotoku-j/>

【問い合わせ先】

所属	鳥取県教育委員会事務局小中学校課			電話	0857-26-7935	
職名	指導主事	氏名	岸田 靖弘	よみがな	きしだ やすひろ	